

第7回中心部震災メモリアル拠点検討委員会における主な意見

1 全般

- ・東日本大震災が世界に例を見ない災害であり、**世界的な特別さなど、国際的な視点を入れるべき。**
- ・震災が突き付けた“**社会の大きな課題**”に、**仙台が向き合い、取り組む覚悟**を打ち出すべき。
- ・震災を経験したことによる責任感だけではなく、“**災害文化を持つ都市を目指す**”という自負を**込める**べき。

2 災害文化の定義

- ・震災を通じて、人間の予想を超えることが自然界で起き得ることを学んだ。**仙台が目指す災害文化の根底には、自然と人間との根本的な問いがあり、そこからライフスタイルを問い直すという意味合いを加える**べき。
- ・生存者を増やし、社会システムの破綻を小さくするだけではなく、暮らしをどう守りつないでいけるか、**へこたれない、ふんばる、折れない**ということが**災害文化**ではないか。
- ・災害が激化、多発化していることを前提に、**東日本大震災だけではなく、様々な災害についても考える**ということが入るべき。
- ・一般的な意味と委員会で議論している“**災害文化**”や“**身体化**”には**差がある**。その都度意味を付記しないと伝わらなくなるので、使い方には注意が必要。

3 拠点の役割・機能

- ・訪れる人が“考える”で終わらずに、**具体的な行動を生み出し、次の世代の生きる力になるところまで持っていく**べき。
- ・住民が好きになる、集まりたい、温かい気持ちになる、子どもの声が聞こえるなど、この場所に愛情を持ち、**行きたくなるような人間らしい言葉を使う**べき。
- ・アーカイブやモニュメントという言葉には既成概念があり、閉架書庫や塔のようなものを建てて終わるというイメージを持たれかねない。例えば“記憶の土台”や“記憶の幹”など、**創造的な取組みにつながるようにユニークな言葉で表す**べき。
- ・展示という言葉では、一方的に出力されてものを見せるという意味になる。ここは、入力し、創り、開く場であり、**訪れる人が能動的に関与することを表す言葉を使う**べき。
- ・過去を回顧する展示ではなく、**新たな行動を生み出すための展示**であるべきであり、**展示、アーカイブ、シンボルは一体的に展開**していくもの。
- ・展示とは、複雑なことをできるだけ複雑なままに伝え、**訪れる人の想像を喚起し、思考につなげる**べきであり、“**展示の場**”というよりも“**思考の場**”と記した方が良い。

- ・知恵の創造と実装として、研究者につなげるだけではなく、研究成果を創造し発信するなど、**研究機能を持つことも入れる**べき。
- ・大事だと言ってきた独立性が入っていない。災害に関わることでも政治性を帯びる現実において、災害の事を考え、**文化としていくためには、独立性を保ち、中立であることが必要**。
- ・“思考の場”としてコントロールしきれないものを引き受けることが、**結果的に独立性につながる**のではないか。
- ・活動の担い手育成は、**展開する上での工夫ではなく機能そのもの**。本拠点における本質的なことであり、重く位置付ける必要がある。
- ・運営の担い手と記載すると、施設や組織の運営という狭い範囲で捉われる。施設運営だけではなく、研究、資料収集、コーディネート、教育、養成など、**高い専門性を持った担い手が必要**であり、それを踏まえた表現が必要。

4 拠点の立地について

- ・他の施設に比類しても、**この拠点が特別であることを冒頭などに加える**べき。

5 今後の検討課題等について

- ・日常の重要な役割を果たす一方で、災害時に果たす役割について議論が不足。**災害時の役割を検討課題に入れる**べき。
- ・**ハザードに向き合う現在進行形の不安**について、人々の精神的な部分ではあるが、この拠点のなかでの捉え方も議論することが必要ではないか。